

事務事業名	庁舎等管理事務				担当	総務部 企画課 管財係			
政策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり				電話番号	0285-83-8103		
施策名	1	市民本位の窓口サービスの向上				■ 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠						☒ 単年度繰返（開始年度 昭和29 年度～）			
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1総務管理費	5財産管理費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	庁舎（本庁舎、庁舎西事務所、上下水道課棟、福祉産環部棟、建設部棟、教育委員会棟、公用車庫運転手控室棟）及び付属設備の維持管理。								

1. 現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 庁舎、設備の維持管理の業務委託、修繕工事等を実施している。 28年度計画 庁舎、設備の維持管理の業務委託、修繕工事等を実施している。				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 維持管理費用		千円	59,702	50,600	47,410	52,381	57,398
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 庁舎（本庁舎、庁舎西事務所、上下水道課棟、福祉産環部棟、建設部棟、教育委員会棟、公用車庫運転手控室棟）及び付属設備				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 管理している建物数		棟	7	7	7	7	7
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 庁舎の機能を維持する。 来庁者への利便性の向上を図る。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 庁舎の不備により事務に支障が出た回数		回	0	0	0	0	0
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 市民への行政サービス向上。 数値は市民意向調査「窓口の対応に満足している市民の割合」参照				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
				名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
				ア 市のサービスに満足している市民の割合		%	79.8	82.8	82.3		
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
(2) 総事業費の推移				単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0						
			一般財源	千円	59,702	50,600	47,410	52,381	57,398		
			事業費計（A）	千円	59,702	50,600	47,410	52,381	57,398		
	人件費		正規職員従事人数	人	2	3	2	2	2		
			延べ業務時間	時間	1,524	1,640	1,398	1,481	1,480		
			人件費計（B）	千円	6,404	6,665	5,901	6,205	6,201		
			トータルコスト(A)+(B)	千円	66,106	57,265	53,311	58,586	63,599		
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等											
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		庁舎の建設時より建物、付属設備の維持管理を行っている。									
		②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？		平成27年3月に真岡市新庁舎建設基本計画が策定された。平成31年度完成予定。							
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？											

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 庁舎は市の事務を行い、市民がサービスを受ける施設である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 市が所有、管理している施設である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 建物、設備について、常に良好な施設として維持管理する必要がある。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 良好に管理をしている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 建物、施設の維持管理が ¹ 不良になり、市民サービスが ² 損なわれる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 建物、設備の維持管理をする必要最小限の事業費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 建物、設備の維持管理費をする必要最小限の人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td>/</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>/</td><td>/</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	/	低下		/	/
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	/																		
	低下		/	/																		
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																						

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td>/</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>/</td><td>/</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	/	低下		/	/
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上																						
	維持		○	/																			
	低下		/	/																			
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																						